

メッセージ



メイド・イン・ハワイ商品をもっと世界へ！

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響により、観光客数の減少や、人が集まるイベントやコミュニティが主導するマーケットなどが1年以上も開催されなかったことで、ハワイで生産される様々なメイド・イン・ハワイ製品を販売する機会が失われていました。米国国内ではワクチン接種が進み、米国本土からの旅行者も増えてきていますが、メイド・イン・ハワイ製品を扱う小規模事業者にはまだ厳しい状況が続いています。

ハワイの農業は主要産業である観光事業においても重要です。毎年世界中から訪れる何百万人もの観光客へハワイ産の食料を使ったリージョナル・キュージーンを提供するだけでなく、エコツーリズム、ファームツアー、文化体験など農業を基盤とした体験旅行への関心も高まっています。ハワイ州観光局としてもハワイで生産される質の高い商品をもっと多くの人に知ってもらうために、メイド・イン・ハワイの商品について紹介します。

メイド・イン・ハワイ商品とはどのようなもの？

メイド・イン・ハワイの一例

食品： コーヒー、紅茶、マカダミアナッツ、チョコレート、クッキー、蜂蜜、ジャム、スナック類、調味料など

美容： ナチュラルソープ、オーガニックオイル、コスメ、リーフセーフの日焼け止め、ボディケアグッズなど

ファッション： アロハシャツ、ムームー、ドレス、ビーチサンダル、ラウハラハット、ジュエリー、バッグなど

雑貨： インテリアグッズ、キッチングッズ、ステイショナリー、ウォーターボトル、エコバッグなど

伝統工芸： コアの木を使った工芸品、ウクレレ、レイ、ハワイ在住アーティストの美術品や絵画、サーフボードなど

ファーマーズマーケットは“メイド・イン・ハワイ”の宝庫！

地元で収穫された新鮮な旬の野菜や果物をリーズナブルな価格で購入できるファーマーズマーケットは、メイド・イン・ハワイの宝庫です。ハワイ農務局によると出店数が4～5軒の小規模なものから200軒にも及ぶ大規模なものまで様々なマーケットが225箇所以上で開催されています。消費者への直接販売額は2012年の1,300万ドルから2017年には2,800万ドルに増加しており、その人気ぶりは、米国農務省が発表した最新の農業センサス（2017年版）データからも読み取れます。ファーマーズマーケットのプレートランチやハンバーガー、ドリンク、お菓子などその場で食事ができるマーケットもあるので朝食や昼食を兼ねて訪れるのもオススメです。ハワイの果物や野菜にも旬があるので、お目当ての食材のベストシーズンを知って旅行計画を立てるのも良いでしょう。

ファーマーズマーケット一覧：<https://www.allhawaii.jp/business/article/media/372/>



メイド・イン・ハワイ商品を扱うセレクトショップやメイド・イン・ハワイコーナーが人気

ハワイ在住アーティストによる作品、ハワイ産食材の加工品、健康・美容商品など、ハワイでしか買えない選りすぐりの商品を販売するセレクトショップが増えています。また、昔から地元の人々に愛され親しまれてきたスーパーマーケットにも、メイド・イン・ハワイコーナーが設けられるなど、ハワイ生まれの商品を購入するムーブメントが高まっています。

ハウス・オブ・マナアップ

フード、ファッション、ホーム、ビューティ、アートなど、ハワイで栽培された食材や文化を紹介するだけでなく、質の高い仕事、農業の持続可能性、再生可能な起業文化など、地元コミュニティを育成する製品を販売して応援しています。オンラインストアと、ロイヤル・ハワイアン・センターに店舗を構えています。

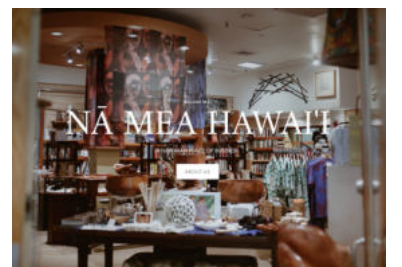
<https://www.allhawaii.jp/spot/4124/>



ナ メア ハワイ

上質なコアの木の工芸品、ハワイの伝統楽器、雑貨、加工食品、バス&ボディ用品、衣類やアクセサリー類、ハワイ関係の書籍など多用なメイド・イン・ハワイの品物が揃います。オンラインストアと、ワードビルレッジに店舗を構えています。

<https://www.nameahawaii.com>



ダウントゥアース オーガニック&ナチュラル

1977年1号店をマウイ島にオープンしたハワイのオーガニック&ナチュラル製品のお店「ダウントゥアース オーガニック&ナチュラル」にある「メイド・イン・ハワイ・コーナー」には、コナコーヒー、チョコレート、ジュースなど食品の他、ハワイ産の最高品質の原料でつくられたボディケア製品も揃えています。

<https://www.downtoearth.org>



メイド・イン・ハワイ商品と認める認証プログラム

ハワイ州産業経済開発観光局やハワイ州農務局は、ハワイ産の食材や加工品をブランド化し、ハワイの人々によって生産された本物の「ハワイ産」であることを認証するプログラムを設けています。また、ハワイ産の商品を購入することができる EC サイトを開設しています。 <https://www.allhawaii.jp/business/article/media/370/>

バイ・ローカル・イット・マターズ (Buy Local It Matters)

2005 年から地産地消を推進するためにハワイ大学熱帯農業学部、ハワイ州農務局、ハワイ州農業連盟の共同プロジェクトとして始動した販売支援キャンペーン。ハワイで生産された農産物を購入することで、ハワイの農園を支援しています。

ハワイ・シール・オブ・クオリティ (HAWAII Seal of Quality)

ハワイ州農務局が 2006 年に発足した認証制度。認定商品には緑色や金色のシールが貼られています。承認条件は、生産地がハワイであること。生鮮農作物は 100%ハワイ産であり、加工農産物は原材料の 51%以上がハワイ産であること。ハワイ州と貿易協会が定めた輸出基準以上の品質であり、ハワイ州農務局の審査を通過することです。登録企業は 81 社。

メイド・イン・ハワイ・ウィズ・アロハ (Made in Hawaii with Aloha)

ハワイ州農務局が管理し、ハワイ州産業経済開発観光局とハワイ商工会議所と共同で推進している 2015 年に発足した認証プログラム。承認条件は、州内で生産され、原料や材料の卸売価格で 51%以上であることです。登録企業は 95 社。

バイ・ハワイ・ギブ・アロハ (Buy Hawai'i Give Aloha)

ハワイ州産業経済開発観光局が 2020 年に開設した通販サイト (セレクトショップ、ローカルフード、ハワイプロダクト、衛生用品) に、製品の 75%以上をハワイで製造している 256 社の商品が掲載されています。

カウアイ・メイド (Kaua'i Made)

カウアイ産の原材料を使った衣服や宝飾品、農産物などを販売促進する目的で、2011 年にカウアイ郡が設立した認証プログラム。登録企業は 138 社。

メイド・イン・マウイ (Made in Maui)

マウイ産商品の認知向上を目的に、マウイ商工会議所が 2014 年に発足した認証プログラム。登録企業は 78 社。公式ウェブサイトからは常にマウイ産の商品を購入することが可能です。マウイ郡最大の物産展「メイド・イン・マウイ・カウティ・フェスティバル」は毎年 11 月に開催しています。



ハワイの果物や野菜も旬があります！

1 年を通して温暖な気候のハワイですが、果物や野菜には旬があります。その年の降雨量や天候により多少の前後はありますが、マンゴーやパパイヤ、パイナップルは春頃から 11 月頃が手に入りやすく食べても美味しいです。甘くて美味しいとうもろこしとタロイモは初夏と冬に旬があります。

ハワイの旬カレンダー：

<https://www.allhawaii.jp/business/article/media/371/>



Hawaii Tourism Authority / Kenji Abe

ハワイで注目されている“プラントベース”のレストラン

コロナ禍で健康志向がより高まったハワイの人々。今ハワイでは美味しく健康的な食事が食べられるレストランが人気です。その中で注目されているのが植物由来の食べ物を中心としたプラントベースのレストランです。オーガニック農法で育てられていること、フードロス削減に取り組むこと、海洋資源や地球環境にも配慮する意識が高まっています。「ハワイ産」「オーガニック」「プラントベース」をキーワードに、新しいハワイのグルメをご堪能ください。



プラントベースレストラン：<https://www.allhawaii.jp/article/4785/>

オーガニック需要はますます高まっている！？

ハワイ州の人々は健康意識が高く、ユナイテッドヘルス財団が毎年発表している米国の健康度ランキングでは、ハワイ州は常に 5 位以内に入っており、直近発表された 2020 年は 1 位でした。肥満や大気汚染レベルが他州を下回る他、運動量も高く 65 歳以上の運動量は 2015 年の 20%から 2019 年は 25.8%へと増加し、運動習慣があることが特記されていました。そのような中、早くからオーガニックの農産物や製品食が注目されており、その売上を見ると、2012 年の 600 万ドルから、5 年後の 2017 年には 2.5 倍の 1,500 万ドルにまで増加しています。<https://www.americashealthrankings.org/explore/annual>



ハワイの農業史

ハワイの農業は島で消費する主食を栽培する小規模農業から始まり、海岸には魚介類を養殖するための養魚池が作られました。プランテーション時代には砂糖やパイナップル生産が盛んになり、日本人も労働力としてハワイへ渡り、1910 年には日本人のコーヒー生産者がコナの農業人口の 8 割を占めたと記録されています。1960 年代には世界の缶詰パイナップル生産量の 80%以上を供給し、砂糖生産も 120 万トン以上の粗糖を生産する規模にまで成長しましたが、90 年頃になると大規模農園は閉鎖し、それらの農地は多様な農産物を栽培する小規模農園へ生まれ変わりました。

米国農務省が発表した 2017 年農業センサスによると、2012 年に比べてハワイの農場数は約 5%増加しました。1954 年は 3,700 軒に満たなかった農園数が 2012 年は 7,000 軒、2017 年には小規模農場が増えて 5%増の 7,328 軒になりました。一方で、市場価値総額は 6 億 6100 万ドルから約 5 億 6400 万ドルに減少しました。マウイ島の砂糖操業が終了したことや、ハワイの種トウモロコシ産業の価格低下に起因すると考えられています。

ハワイ州は 2030 年までに達成すべき 6 つの目標「アロプラスチャレンジ」のひとつに、ハワイ州の食料自給率 10%を 2030 年までに倍増させ、州内で消費する食料の 20~30%をハワイ産で賄う目標を掲げています。ハワイ産の食材や加工品を増やすことで雇用を創出し、経済を活性化することを目指しています。ハワイの農業は主要産業である観光事業においても重要です。毎年世界中から訪れる何百万人も観光客へハワイ産の食料を使ったリージョナル・キュジーヌを提供するだけでなく、エコツーリズム、ファームツアー、文化体験など農業を基盤とした体験旅行への関心も高まっています。

参照サイト：<https://hdoa.hawaii.gov/blog/ag-resources/history-of-agriculture-in-hawaii/>

General Information

お知らせ

「ポップアップ・マケケ」が7月から開設

パンデミックの影響を受けたハワイの小規模事業者を支援する目的で、ネイティブハワイアン評議会が開設した集中型オンラインマーケットプレイスです。2020年4月～5月に1回目、2回目は10月～11月に開催され、これまでに100社以上の中小企業が参加し、10万点以上200万ドル以上の商品を販売しました。2021年7月に始まった3回目は、Amazonと提携して販路を拡大しました。現時点で終了予定日は未定で、常設オンラインショップ「マケケ」としての継続を検討がされています。

<https://popupmakeke.com/>



メイド・イン・ハワイ・フェスティバル、今年は11月11日から開催

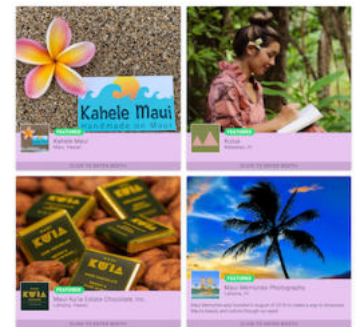
メイド・イン・ハワイ協会が主催するハワイ最大の物産展「メイド・イン・ハワイ・フェスティバル」は、毎年大規模ホールで3日間にわたり開催される人気のショッピングイベントです。今年は11/11（木）～11月14日（日）ハイブリッドで開催される予定で、ハワイで作られた工芸品、食料品、アート、装飾品、生活雑貨、土産物など400店以上が出店する予定です。リアルでは、午前10時から午後9時までアラモアナ・センター駐車場4階で開催されます。<https://madeinhawaiifestival.com>



メイド・イン・マウイ・カウンティ・フェスティバル、オンラインで11月5日から開催

マウイ商工会議所が主催し、マウイ郡経済開発局が後援する毎年恒例の「メイド・イン・マウイ・カウンティ・フェスティバル」は、2014年11月に初開催して以来、参加者を増やし続け、マウイ郡最大の物産展となり島の小売店を支えています。2019年からハワイアン航空を冠スポンサーに迎え、2021年は11月5日から2日間にわたるバーチャルフェスティバルの開催を予定しています。バーチャルブースに加えて、ライブストリーミングイベントでは、料理のデモンストレーションや生演奏なども楽しむことができます！

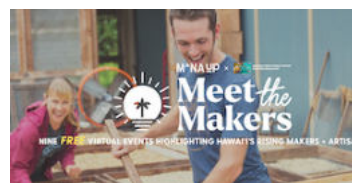
<https://www.madeinmauicountyfestival.com/>



ハワイ諸島の職人や農場見学ができる新しいバーチャルイベント

ハワイで活躍する起業家が企画した、ハワイで作られた商品の舞台裏を紹介するバーチャルイベント「Meet the Makers」（ミート・ザ・メイカーズ）が7月28日から始まります。初回は「ビッグアイランド・コーヒー・スターズ」で、農園見学や美味しいコーヒーの淹れ方やテクニックが学べます。言語は英語になりますが、バニラやカカオファーム、アグリコルラムメイカー、シェフ、ミュージシャンなど、それぞれのこだわりや裏話などが楽しめます。バーチャルイベントはハワイアン航空とマナアップのFacebookページでライブ放送され、来年1月までに9回予定されています。

<https://houseofmanaup.com/pages/mana-up-x-hawaiian-airlines>



Updated News

最新情報

新型コロナウイルス感染症、ワクチン摂取率と規制緩和

ハワイ州は7月8日より、米国内でワクチン接種を完了した渡航者に対し、出発前検査と到着後の隔離義務を撤廃しました。また、集会の上限人数を州全域で屋内が25人、屋外が75人まで拡大され、飲食店の収容上限も75%に緩和しました。現在、日本からの渡航者はハワイ州指定のPCR検査陰性証明書を提示することで到着後の隔離が免除されます。米国本土からの旅行者は、PCR検査陰性証明書、またはCDC発行のワクチン接種証明書を提示することで到着後の隔離が免除されます。ハワイ州は、州内のワクチン接種率が70%を超えた時点で州による全ての渡航制限を撤廃する方針を発表しています。<https://www.allhawaii.jp/covid19/news/>

日本からハワイへの運航状況（7月9日現在）

2021年7月から9月にかけて日本とハワイを結ぶ直行便の運航数は以下の通りです。8月は最も便数が多く、ハワイアン航空の成田発が14往復、関空発が4往復、全日本空輸の羽田発が6往復、A380型機「FLYING HONU」の成田発が2往復、日本航空の羽田発が13往復、ZIPAIRの成田発が4往復を予定しています。

2021年7月 羽田から17便、成田から16便、関西から4便 37便

2021年8月 羽田から19便、成田から20便、関西から4便 43便

2021年9月 羽田から18便、成田から18便、関西から5便 41便

<https://www.allhawaii.jp/business/article/travel/331/>

2021年5月までの渡航者数

ハワイ・ツーリズム・オーソリティが発表した2021年5月のハワイへの全渡航者数は629,681人。アメリカ西部から418,956人（8%増）、アメリカ東部から193,501人（2.9%増）と観光客がコロナ前を超えました。国際マーケット最大の日本からの渡航者数は1,312人（98.8%減）、カナダからは564人（97.9%減）、その他の海外からは15,347人でした。日本人の平均滞在日数は16日で、全世界の渡航者の平均滞在日数9.38日を大幅に上まわった他、一人1日あたりの消費額は232.4ドル（4.6%減）とアメリカ西部の189.5ドルやアメリカ東部の198.2ドルよりも高い結果となりました。（）内は2019年5月比

<https://www.allhawaii.jp/business/article/travel/312/>

専門家から学ぶ「ハワイ通信ゼミ」が開講

ハワイについて専門家から学ぶ「ハワイ通信ゼミ」の「マラマハワイコース」を7月7日（水）に開講しました。マラマハワイコースでは、ハワイの自然環境や伝統文化について学びます。ハワイ州観光局日本支局長による観光×SDGs講座（7/7公開）、サステナブル・コーストラインズ・ハワイ国際講師による海洋保全講座（7/21公開）、ハワイ島自然解説員による自然保全講座（8/4公開）、日本航海協会理事長による太平洋の古代航海術講座（8/18公開）と、講義は4回で受講は無料です。また、夏休み特別企画として、フラリア編集長による歴史文化講座（8/25公開）も開講します。<https://www.allhawaii.jp/business/article/media/352/>